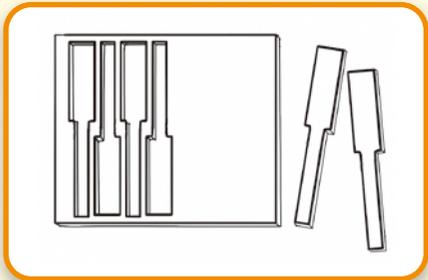


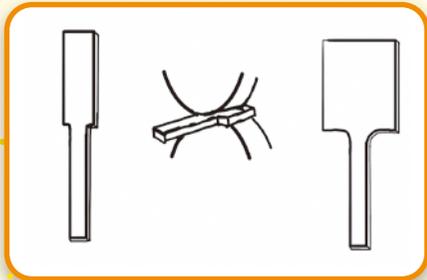
スプーンの作り方

国内で使われているスプーンなどの金属洋食器のうち、燕で製造されたものの割合はなんと約90%!多くの工程をかけて職人が一つ一つ作り上げています。



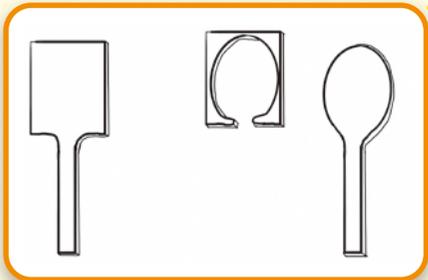
1、地抜き加工

スプーンの大きさにあわせて、1本ずつうちぬきます。



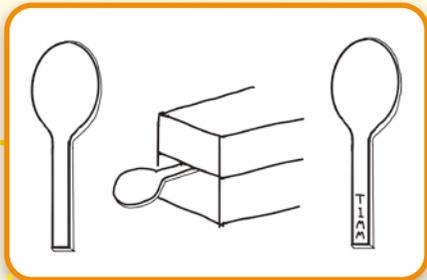
2、ロール加工

口に入れる部分を、うすくします。



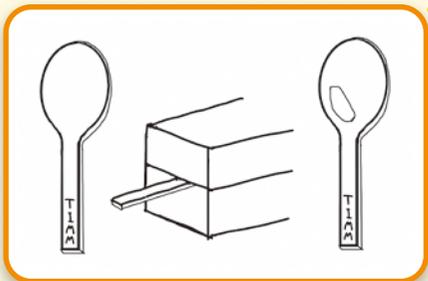
3、半切り工程

口に入れる部分を、まるいかたちにします。



4、柄押し・刻印工程

金型を使って、もようやマークをいれます。



5、ツボ起こし工程

口に入れる部分をおしつぶし、スプーンのかたちにします。



6、研磨工程

キズなどをみがいて、うつくしくしあげます。

みがくと見た目だけでなく、よごれにくくなり、使い心地もGood!!

7、出荷

磨き残しや、キズがないか1本1本確認。それを袋に入れて、箱に詰めて出荷します。



燕市産業史料館

「学習ハンドブック」



Tsubame Industrial Materials Museum

住所 | 〒959-1263 新潟県燕市大曲4330-1
電話 | 0256-63-7666
開館時間 | 午前9時～午後4時30分
休館日 | 月曜日(祝日の場合は翌日)/年末年始



<http://tsubame-shiryokan.jp/>



本館

起源を紐解く

江戸時代から続く燕の鎚起銅器、ヤスリ、煙管、彫金といった伝統的金属工芸技術について、製作工程や作業場の復元の展示を通して紹介しています。



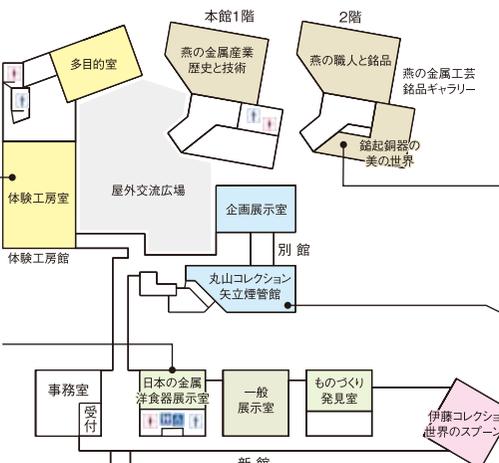
別館

技を感じる

丸山清次郎氏(1900～1982)が生涯をかけて収集した、江戸時代から明治にかけての“煙管”と“矢立”の一大コレクション。



チタン製スプーン▼
酸化発色
▲純銅タンブラー
鎚目入れ
▲金属洋食器



▲木目金花瓶

丸山コレクション 煙管▼



体験工房館

技術に触れる

鎚目入れ・チタン発色・伝統工芸技術などの体験メニューでお子様から大人の方まで楽しんでいただけます。作った作品は持ち帰れます。



新館

歴史を知る

日本の金属洋食器展示室では、明治から始まる燕の金属洋食器の歴史と、日本の食文化の移り変わりをくまなく知ることができます。

燕の金属産業について



燕のうかの農家なんどは何度も水害すいがいの被害ひがいにあいましたが、4つの地理的ちりてきじょうけん条件じょうけんがそろい金属産業きんぞくさんぎょうが発達はつたつしました。

- ① 弥彦山やひこやまからの材料供給ざいりょうきょうきゅう
- ② 下田郷したたごうからの燃料供給ねんりょうきょうきゅう
- ③ 仙台せんだいや会津地方あいづからの職人・技術しよくにん ぎじゆつの伝来でんらい
- ④ 川かみを使った流通りゅうつう



金属産業のルーツを探る…

新潟県燕市にいがたけん つばめしは金属洋食器きんぞくやうじきをはじめとする金属産業きんぞくさんぎょうの一大産地いちだうさんちとして全国ぜんこくに知られるようになりました。その歴史れきしは古く、何度も起こる水害すいがいから農民のうみんを助けるために、副業ふくぎとして勧められた「和釘わくぎ」の製造せいぞうが、この地の「ものづくり」のはじまりといわれています。

その後ついで、鉋起銅器けんきどうきやヤスリやすり、煙管えんぱんなどの製造せいぞうに発展はつてんしています。現代げんたいでは世界せかいに誇る金属加工産業きんぞくかこうさんぎょうを確立かくりつしています。



和釘

※和釘とは…日本古来の建築けんちくに用いられ、現在は伊勢神宮いせじんぐうをはじめとする神社仏閣じんじふつかく・城郭じやうかくなどの古建築物ふるけんちくぶつの修理復元しゆりふくげんに使われています。

燕の産業の移り変わり



発達



鉋起銅器

彫金

煙管

ヤスリ

技術の応用

造形

金型

研磨

金属加工

カタチを変えながらも受け継がれてきた燕の金属産業は、「造形」「金型」「研磨」「金属加工」の複合的な技術として応用されました。

現在は、金属ハウスウェア製品や、デザイン性の高い製品の製造、さまざまな金属製部品の加工など、生活に欠かせないありとあらゆる製品を生み出しています。



やかんの鉄精くん

僕たちの知らないところで、燕の製品が使われているんだね！もししたら、あなたのお家にも燕の製品があるかも…？

発展



金属洋食器



酸化発色
タンブラー



カメラ



カメラ部品